

# 会 報

2018年6月20日発行

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部  
事務局連絡先 Phone : 080-9495-8566 E-mail : [ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp](mailto:ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp)  
支部長 : 長嶋滋孔 事務局長 : 岡井政彦 会計 : 池谷忠文 広報 : 岩田良明・関根洋子

## 合格者説明会

技術士試験合格者を対象に技術士会支部活動の説明会を下記により実施した。

日時:平成30年4月21日(土) 15:00~18:30

場所:男女共同参画センターあざれあ 第2会議室

出席者総数:26人

(合格者11人(一次6人、二次5人) 既会員15人)

1. 支部長挨拶
2. 支部概況:主な活動歴紹介と現在の支部概況
3. 重点活動紹介
  3. 1 研究会活動  
防災研究会、インダストリー4.0・IoT研究会、建設研究会、総合技術監理部門各研究会の紹介
  3. 2 防災支援  
市(静岡、牧之原)、県、県士業連絡会等との災害支援について
  3. 3 社会貢献委員会  
テクノロジーカフェー  
理科支援(小・中学校理科授業)
  3. 4 CPD例会(技術士研鑽研修)

※CPD(Continuing Professional Development):  
技術士法第47条の2:「技術士の資質向上の責務」としての継続研鑽

3. 5 広報
4. 先輩技術士から伝えたいこと 水野会

員(建設、応用理学、総合技術監理)

5. 出席者(合格者)からの質問に答えるコーナー
6. 懇親会 レストラン はれのひ

### 配布資料

- 1) 県支部紹介
- 2) 静岡県支部研究会活動について
- 3) 日本技術士会中部本部防災支援制度(防災支援者の登録制度)について
- 4) テクノロジーカフェ  
(市民に対するわかり易い科学のお話し)
- 5) 理科支援活動  
(小・中学校での理科特別教室実施について)

### 別紙配布

- ・支部会報
- ・静岡県技術士協会50周年記念誌
- ・日本技術士会概要(旧パンフ)
- ・技術士CPD制度(旧パンフ)
- ・科学技術鑑定グループチラシ

### 合格者説明会を終えて

試験合格者からは、技術士会活動の一端を知ることができたと概ね良好な意見であった。また、これにより合格者の技術士会活動参画への動機付けができた。

既会員からは次年度以降も継続して実施すべきとの意見が多数寄せられた。(事務局)

## 合格者説明会参加者からの感想

(敬称略)

氏名：内藤 克巳 技術部門：機械部門 勤務先：東芝キャリア株式会社

### ・試験合格前後に考えていたこと

私は、技術士のあるべき姿（技術的貢献活動、社会貢献活動、CPD活動）について、技術士会の指針や先輩技術士の取り組みを参考にして、私自身として何ができるか模索していた。計画的な行動が大切だと考えていた。

### ・説明会に参加しての感想

静岡県支部の説明会より一週間前に開催された機械部会の祝賀・活動説明会では、会員の親睦交流が主であり、技術士会および技術士活動の紹介は大雑把な内容であった。そのため、静岡県支部のCPD活動、社会活動に関する実例を含めた具体的な紹介は、今後の活動に対するイメージ作りの助けとなった。

### ・説明会の改善点・意見

- ① 静岡を拠点とした独立系技術士、企業内技術士による、技術士としての活動事例の紹介
- ② 地方におけるCPD活動の強化策（技術士会・部会活動は都市圏に集中するため）
- ③ 技術士の知名度向上に関する情報提供

氏名：勝俣陸男 部門：建設部門、総合技術監理部門

### 説明会の意義

静岡県は山、川、海の自然及び温暖な気候に恵まれています。巨大地震・津波、大型台風、富士山噴火といったリスクが存在します。静岡県支部会員は、こういった中で生産活動を継続し、我が国の経済発展や観光を通じて文化発展に寄与する役割があることを再認識することができました。

### 説明会を通じて考えた事

新規合格者との懇談を通じて、技術士資格について再考することができました。

#### (1) 技術士のメリット

特に建設部門を除く部門では実質的なメリットが見受けられず、これら部門の社会的な認識を広めて行く必要性を痛感しました。

#### (2) CPD 義務化について

海外の技術士、また APEC エンジニア、さらに日本の学協会が認定する新資格では既に CPD 義務化が通常となっています。日本の技術士の優位性を保つためにも、日本の技術士においても CPD の義務化が急務であると感じました。

氏名：須永 浩介、部門：電気電子（一次）、勤務先：ローム浜松株式会社 工場管理課

私が合格者説明会に出席し印象に残った点は、技術士として所属する企業や地域としての役割についてのお話です。今回の説明会に参加する前は、技術士資格取得が技術者のキャリア形成過程の完了形として考えていましたが、技術士の資格取得がゴールではなく、技術士を取得した後も継続的に自己啓発を行いながら、トップレベルの技術者になることを期待される事を感じ取れました。今回、静岡県支部の活動に関する説明いただき、諸先輩の方たちが、どのように自己研磨や地域貢献をしているのか鮮明にイメージ出来ました。ただ、会場について新規合格者と運営スタッフがバラバラの席に座っていたので、事前に分かる様に着席する場所を指定されたら良いと感じました。自身としては、今後も静岡県支部の活動に出来るだけ参加して参りたい所存です。

氏名：石垣 治久、部門：環境部門、勤務先：㈱明電舎 沼津事業所

この都度、技術士2次試験(環境部門)に合格し、静岡県支部技術士合格者説明会への参加及び投稿の機会を与えていただきありがとうございます。

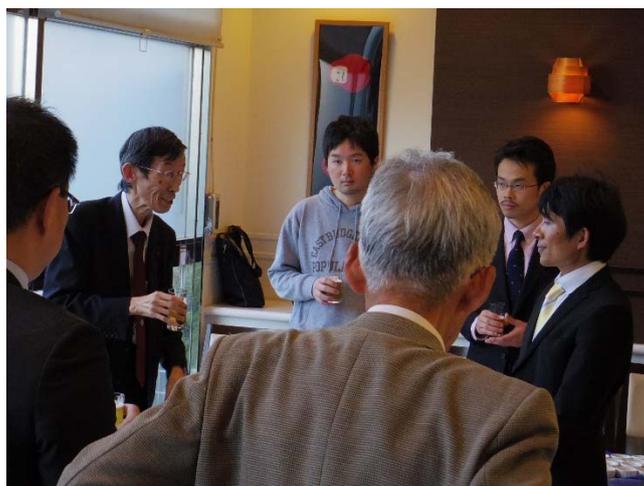
私は、電機メーカーにおいて事業活動に伴う環境関連測定及び製品を構成する部品・材料の分析評価に携わり、環境保全・品質向上に取り組みました。また3年間、地元の工業高校に特別教諭として出向し、実習、部活動を中心に、若者達と触れ合いました。

今回、説明会に参加して、先輩技術士たちが、例会セミナーでの継続研鑽や防災、技術教育などの社会貢献活動を生き生きとされていることに大きな刺激を受けました。

今後、技術士会の活動を通じて技術者交流の輪に加わり、資質向上に務め、微力ながら社会貢献できるように努力していきたいと考えています。

どうぞ、よろしく願いいたします。

(掲載順不同)



懇親会では、活発な意見交換が行われました。

# 平成 30 年度 第 1 回例会

## 1. 概要

日時：平成 30 年 4 月 28 日（土）

会場：静岡市男女共同参画センター  
「あざれあ」

参加者：34 名

## 2. 講演内容

### 【講演Ⅰ】

「鉱物資源開発と国際協力」

独立行政法人国際協力機構（JICA）

国際協力専門員 資源開発アドバイザー

細井 義孝 氏



海外での豊かなご経験から、鉱物資源開発技術と国際協力について、ご講演いただいた。

〈概要〉日本の多くの財閥を生み出した背景には鉱山があった。適切な運営のもとでは、鉱業はめざましい国家経済の発展に資する。開発途上国には、資金も技術も無くインフラも整っていない。このため、外国企業の力を借りなければ開発は不可能である。当該国にとっても開発インフラの整備という経済負担が伴うこととなる。

JICA の技術協力は、鉱物資源管理協力(ボツワナ)では、地質院の技術者育成への技術支

援（アンゴラ）の一環としてハードとソフトを導入してリモートセンシングと GIS データベースの構築などの技術を移転し、現地人材を活用し有望地を探查(マラウイ)させるなど様々な協力支援を行ってきた。

### 【講演Ⅱ】

「魚食と健康」

東海大学海洋学部 水産学科教授(食品科学専攻)

平塚 聖一 氏



魚食の減少と健康への影響に関する問題に加え、静岡県内での漁協が関わる魚食の 6 次産業化の事例についてお話しいただいた。

〈概要〉水産庁のファストフィッシュ作戦（開封後そのまま食べれる、骨がないなど）は、①魚の調理離れがさらに進行する②魚の加工食品化が進み「規格魚」しか採用されなくなる③輸入魚も OK で国産魚流通が停滞する可能性があるなど様々な問題点を有している。

6 次産業化が成功しないのはなぜか。生産者が消費者のニーズに関係なく、商品企画を行い、良いものは必ず売れるはずだとの思い上がりも一因である。

## 平成 30 年度 年次大会 および 第 2 回定例会

### 1. 年次大会 概要

日時：2018 年 6 月 9 日(土) 13:20～

会場：静岡県男女共同参画センター

「あざれあ」(静岡市)

参加者：56 名

進行：岡井事務局長

報告：長嶋支部長

その他報告：部外との協定加入団体

### 2. 講演

「STARS Project 宇宙エレベーター／宇宙  
デブリ除去」 静岡大学 能見公博 教授

### 3. 懇親会

場 所：はれのひ (あざれあ)

参加者：38 名

第 1 号報告：2017 年度事業報告

並びに収支決算

第 2 号報告：2018 年度計画

並びに収支予算

第 3 号報告：県支部役員体制・協賛会員

### 第 1 号報告：2017 年度事業報告

#### 並びに収支決算

#### 1) 会員の状況 (2018 年 4 月 1 日現在)

名誉会員 2 名(重複)

正会員 231 名

準会員 79 名 計 312 名

#### 2) 支部例会等の報告

##### (1) 平成 28 年度年次大会

2017 年 6 月 10 日 (土) 開催

##### (2) 例会 計 4 回開催

##### (4) 地区ブロックにおける CPD 活動等

東部、中部、西部 各 1 回開催

#### 3) 委員会報告

##### (1) CPD 委員会

支部主催の CPD 行事、例会の企画、実施

##### (2) 防災委員会 (災害協定研究委員会)

a. 静岡県支部防災委員会の活動

b. 静岡市との協定に係る災害協定研究

#### 委員会の活動

c. 静岡県との災害協定に係る事項

d. 静岡県災害対策始業連絡会

##### (3) 社会貢献委員会

a. テクノロジーカフェ

毎月一回静岡市の団塊創業塾『くれば』  
で継続開催

b. 理科支援委員会

静岡県支部会員を派遣し小学校において  
29 年度は 7 件理科授業を実施。

##### (4) 事業開発委員会

・静岡県交通基盤部農地局農地整備課から  
の電気関係整備工事の検査業務を実施

・静岡県建設工事紛争審査会委員 (静岡県  
交通基盤部建設支援局建設業課所管) として  
1 名選出

・牧之原市(2015 年 11 月 30 日に公共土木  
施設に係る技術的助言に関する包括協定を  
締結)1 件助言依頼、研修会 2 回開催。

・静岡県日中友好協議会が実施した科学技術

庁代表団との懇談会に出席、2 会員が浙江省へ技術指導で出張した。

(5) 広報委員会

会報発行 4 回 (第 158～162 号)

4) 研究会報告

2017 年 9 月から、防災研究会、インダストリー4.0・IoT 研究会、建設研究会、総合技術監理部門研究会、の活動が開始された。

各研究会から、活動報告と今後の活動内容について報告があった。

5) 日本技術士海中部本部の委員会報告

6) 2017 年度会計決算報告

(1) 事業活動収入	1,161,061 円
(2) 事業活動支出	836,681 円
(3) 当期収支差額	324,380 円

第 2 号報告：2018 年度計画並びに収支予算

1) 事業推進の方針

(1) 会員の皆様が自己研鑽のため参加しやすい CPD 例会を企画する。

(2) 社会貢献活動を推進する。

2) 事業計画

(1) 年次大会 (例会と同時開催)

2018 年 6 月 9 日 (土) 開催

(2) 例会開催予定

第 1 回：2018 年 4 月 28 日 (土) (終了)

第 2 回：2018 年 6 月 9 日 (土) (終了)

第 3 回：2018 年 8 月 25 日 (土)

第 4 回：2018 年 10 月 20 日 (土)

第 5 回：2018 年 12 月 8 日 (土)

第 6 回：2019 年 2 月 23 日 (土)

地域ブロック自主活動 (東部、中部、西部)

随時開催

(3) 技術士会会員拡大に向けて

(4) CPD 活動の活性化

(5) 研究会

(6) 防災活動

(7) 社会貢献活動

(8) 事業開発活動

(9) 広報活動

3) 2018 年度会計収支予算

(1) 事業活動収入	1,358 千円
(2) 事業活動支出	1,284 千円
(3) 当期収支差額	74 千円

支 部	役 職	氏 名	
役 員 (青字は 中部本部幹事)	副本部長	長嶋滋孔	
	中部本部幹事	岡井政彦 井辺博光 山之上誠 近藤 衛	
	総務委員会	岡井政彦	
	倫理委員会	吉田建彦	
	企画委員会	長嶋滋孔 牧野好秀	
	CPD 小委員会	井辺博光 柴田達哉	
	修習技術者支援委員会	森 一明	
	試験業務支援委員会	中村 央	
	広報委員会	岡井政彦 五味道隆	
	活用促進委員会	長嶋滋孔 山之上誠	
	社会貢献委員会 (防災支援委員会)	山之上誠 近藤 衛 土井俊幸	
	社会貢献委員会 (理科支援委員会)	柴田達哉 吉田建彦	
	静岡県支部 幹 事	支部長	長嶋滋孔
副支部長		岩田良明	
副支部長		山之上誠	
副支部長 (事務局長)		岡井政彦	
事務局長 補佐		土井俊幸	
会計幹事		池谷忠文	
会計副幹事(前期幹事)		土屋国彦	
静岡県支部 委員会	CPD 委員会	大嶽陽一※ 柴田達哉 仁科 憲 牧野好秀 水野俊兵	
	広報委員会	岩田良明※ 関根洋子 山下久吉	
	防災委員会	近藤 衛※ 柴田達哉 山之上誠 角入一典 土井俊幸 山下久吉	
	(災害協定研究委員会)	松本 亨※ 山之上誠 關尚彦	
	社会貢献委員会	テクノロジーカフェ	山之上誠※ 鈴木敏広
		理科支援委員会	吉田建彦※ 柴田達哉 小泉雅弘
	事業開発委員会	山之上誠※ 角入一典 土井俊幸 鈴木敏弘	
静岡県支部 地区幹事	中部担当幹事	柴田達哉※ 岩田良明 関根洋子 山之上誠	
	西部担当幹事	仁科 憲※ 小泉雅弘 中村 央 森 一明	
	東部担当幹事	大井寿彦※ 土屋国彦 土井俊幸 山下久吉	

※: 各委員会の委員長

## 協賛会員一覧

No.	会社名	役職	代表者	所在地
1	大鐘測量設計(株)	代表取締役社長	小田 稔彦	島田市
2	(株)共和コンサルタント	代表取締役社長	杉本 洋	浜松市
3	(株)建設コンサルタントセンター	代表取締役会長	小田 秀昭	静岡市
4	昭和設計(株)	代表取締役社長	山村 卓道	静岡市
5	太洋電機(株)	代表取締役社長	大石 敏男	静岡市
6	(株)中部総合コンサルタント	代表取締役社長	豊田 哲也	浜松市
7	(株)東日	代表取締役社長	鈴木 正之	沼津市
8	(株)日本地理コンサルタント	代表取締役社長	山田 巧	静岡市
9	(株)蓮池設計	代表取締役社長	蓮池 康彦	浜松市
10	服部エンジニア(株)	代表取締役社長	服部 剛明	静岡市
11	不二総合コンサルタント(株)	代表取締役社長	近藤 拓己	浜松市
12	(株)フジヤマ	代表取締役社長	藤山 義修	浜松市
13	吉田測量設計(株)	代表取締役社長	吉田 英司	浜松市

(五十音順・敬称略)

[2018年4月1日現在]

懇親会には、第2回定例会で講演をいただいた静岡大学能見教授に加え、参議院議員 新妻秀規氏もご参加くださいました。新妻氏は、技術士（航空・宇宙部門、総合技術監理部門）でもあるため、今後の技術士活動の発展に尽力するとの力強いお言葉をいただきました。

また、4月に開催した合格者説明会以降、静岡県支部活動に参加してくださった方もありました。様々な分野の技術士が一堂に会し、多岐にわたる話に花が咲き、充実した時間となりました。



## 【第2回定例会 講演】

### 「STARS Project 宇宙エレベーター／宇宙デブリ除去」

静岡大学 能見公博教授



香川大学勤務時代から取り組まれている、STARS プロジェクトと宇宙デブリ問題について、ご講演をいただきました。

STARS＝

Space Tethered Autonomous Robotic Satellite

#### (概要)

STARAS プロジェクトの目的は、宇宙テザー(ひも)、ロボット制御、複数衛星運用技術の確立を目的とした小型衛星開発、打ち上げ、宇宙実験の実施である。現在、香川大学での実施も含め 5 機(打ち上げ予定も含む)が開発されている。

宇宙テザー伸展の確認には、衛星に搭載したカメラでの撮影で行うが、宇宙では太陽光が想定よりも強く撮影は困難である。また、衛星の運用は搭載した太陽光発電で行うが、想定以上に発電するため余剰電力を逃すのに苦労した。

超小型衛星は、CubeSat (キューブサット)とも呼ばれ、一辺 10cm の立方体を 1 個～3 個並べた程度の大きさで重量も 1～4kg くらいと、極めて小さな人工衛星をそのように呼んでい

る。

相乗り衛星(ピギーバック)は、主のロケット打ち上げを行う際に、余剰能力を活用し小型衛星を打ち上げている。

香川大時代に打ち上げた、2 機の衛星の結果から、宇宙でひもを伸ばすことが困難であることがわかったため、静岡大学に移ってからは、ひもの伸展に集中して実験や開発を行っている。



宇宙デブリ(ゴミ)問題。静止軌道にはデブリが多く集まっています、地球近傍も多い。宇宙エレベーター構想は、静止軌道に衛星を乗せる必要があるため、デブリが問題になる。米露の衛星が衝突した事件もあり、宇宙デブリ問題が浮上している。人の生活圏にも落下してくる可能性もあり、非常に危険。10cm 以上の衛星は地上からも観測できるが、それ以下のものは観測できない。現在は、1cm 以上 10cm 未満は対策されていないおらず、数がどんどん増え問題視されている。

※講演タイトルは、事前にお知らせしたものと変更になっております。ご講演いただいたプロジェクトについては、下記の STAR プロジェクトホームページに詳しい解説がありますので、ご参照ください。

[stars.eng.shizuoka.ac.jp](http://stars.eng.shizuoka.ac.jp)

## 地区ブロック活動

地区ブロック活動を下記の通り実施したので報告する。

### ◆東部地区

- ①2018年1月13日(土)越前屋藤助[沼津駅]
- ②出席者：会員19名※うち初参加者5名(合格発表待機者1名)
- ③内容：新年交流会

### ◆西部地区

- ①2018年3月3日(土) セレクトイン浜松駅前
- ②出席者：会員14名
- ③内容：会員による講演2題 例会終了後交流会を開催(交流会参加者9名)

講演1「総合技術監理の担うべき課題」 五味会員  
講演2「日本の地形とインフラ」 仁科会員

### ◆中部地区

- ①2019年3月17日(土)静岡駅前会議室 LINK
- ②出席者：会員11名、非会員2名(協賛会員) 計13名
- ③内容：会員による講演

下記に詳細を報告

### 2017年度中部地区例会報告

今年度は、「新しく気軽な雰囲気」をコンセプトとして昼食をとりながら、地区例会を実施した。自由な発言で活発な討議が行われた。

#### ① 業務紹介と担い手確保、技術継承の取り組みについて

(株)テクノスジャパン静岡支店 上原央(建設部門)

一般的な建設コンサルタント会社で行っている測量・設計業務に加え、「発注者支援業務」という業務を受注している特色がある。また、担い手確保、技術継承を行う上での課題、問題点と解決に向けた取り組み事例として、「技術者の不足」を挙げ、社内での資格試験受験サポート体制の整備、培ってきた経験の形式化及びチェックシートの活用による熟練技術者の視点の共有による対策を計っている。

#### ② 昭和設計技術士会の現状と今後の課題

(株)昭和設計(協賛企業)

取締役建設環境部長 荒山晃(技術士 建設部門)

現在(株)昭和設計では、11名の技術士が従事し、社内技術士会を組織している。後輩指導を中心に事例紹介や試験対策を行っている。今年度の合格者が2名輩出され一定の効果を示している。また、業務としては、一般土木設計を中心に昨今では、社会実証実験に取り組み、「駿府公園お堀での観光船」の企画などを行いまちづくり業務の一環としてユニークな取り組みを行っている。

#### ③ 独立開業技術士の業務開拓ノウハウ

三宅立郎技術士事務所 三宅立郎(機械部門)

技術コンサルタントの仕事は、「現状とあるべき姿の間に、橋をかける」こと。そのために、職務を「自分事化」し、悩みをよく聴くことが大事。新規業務は、外部の多くのチャネルを利用し、トライ&エラーで開拓実施。

#### 参加者

氏名	会員・非会員	部門
水野俊平	会員	建設 応理 総監
鈴木敏弘	会員	電気電子
池谷忠文	会員	農業土木
上原央	会員	建設
熊谷真孝	会員	建設
渡邊優	会員	機械
白木久也	会員	建設 総監
三宅立郎	会員	機械
荒山晃	賛助会員	建設
山之上誠	会員	建設
小沢靖	会員	機械
柴田達哉	会員	建設 応理 総監
森竹俊之	賛助会員	建設 総監



(文責；柴田達哉)

## お知らせ

### ■今後の予定

名 称	月 日	時 間	場 所	内 容
第 3 回例会	8 月 25 日(土)	午後	静岡県男女共同参画センターあざれあ	(未定)
第 4 回例会	10 月 20 日(土)	午後	(未定)	(未定)
第 5 回例会	12 月 8 日(土)	午後	(未定)	(未定)
第 6 回例会	2 月 23 日(土)	午後	(未定)	(未定)

※会員の方には、メーリングリストにて、随時行事の案内をお知らせいたします。

会員以外の方の参加も受け付けておりますので（公社）日本技術士会中部本部静岡県支部の HP よりお申し込み願います。

※テクノロジカフェは、月 1 回開催しています。講師も継続募集中です。ご興味のある方は、お問い合わせください。

※研究会も随時活動中、お気軽にお問い合わせください。

※本年度も「こども地震防災教室」（主催：静岡県地震防災センター）に協力します。企画及び参加者を募集しています。ご興味のある方は、是非お問い合わせください。



中部本部 静岡県支部

---

事務局：〒422-8005 静岡市駿河区池田 2316-2(岡井政彦)

TEL : 080-9495-8566 E-mail : [ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp](mailto:ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp)